KOMAKYOだより

もえぶくろう

小松教育事務所

NO.9
H.25.3.18

学力向上！成果を上げている8つの要因について

３月も半ばを迎え，学校では，今年度の取組を見直し，来年度に向けて改善を図られていることと思います。

さて，今回は，昨年１２月に実施された評価問題で成果を上げている学校の取組を調査したところ，共通する８つの要因がみえてきましたので，紹介します。ぜひ，学校の取組に生かしてみてください。

《学力向上！成果を上げている8つの要因》

要因その１

管理職のリーダーシップ

組織力

授業の充実

○明確な校長ビジョンのもと，教務主任や研究主任を核として全教師で方針や具体的な方策等を共有し，全校体制で学力向上を推進しています。
→目指す児童生徒像や目指す授業像の明確化から共通理解，共通実践まで

○教師集団全体の力量を高め，授業の充実を図っています。
→模擬授業，授業交流，ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ型授業整理会，OJT（若手育成）等の取組

○一部教科担任制（専門性を生かす）の導入や小中連携に重点をおいています。

要因その２

学習タイムの有効活用

計画的

時間・内容に工夫

○全学年，年間計画表を作成し，内容の共有を図り，組織的に実施しています。

○取り組む内容は，A 問題と B 問題をバランスよく設定し，課題がある問題は，子どもに力がつくまで徹底して取り組んでいます。

○B 問題を行うために，時間確保に工夫をし，ショートタイム（１０分）の他に掃除の時間を利用したロングタイム（２５分程度）を設定しています。

○PC のﾃﾞｽｸﾄｯﾌﾟに過去問のｼｮｰﾄｶｯﾄを作成するなど，利便性に工夫しています。

要因その３

短期間の検証

検証結果に即，対応

検証の位置付け

Plan → ***Do*** → ***Check*** ⇔ ***Action***

○C（ﾁｪｯｸ）と A（ｱｸｼｮﾝ）を短いｻｲｸﾙでできるまで繰り返しています。

○検証で結果が見られない時は，すぐ改善を図り,新しい取組を実施しています。

○学習タイムや授業，その他の取組について，年間計画に検証を位置付け，改善を図っています。

要因その4

書く活動の充実

読書活動の充実

○自分の考えを書く時間を授業の中に位置付けています
○作文を何度も推敲し，清書する学習を取り入れています。
○字数制限等，条件に合わせて書く活動を取り入れています。
○定期テストに記述式問題を取り入れています。
○読書の量，質ともに向上を図り，読解力の育成を図っています。

→ **無解答率の減少**

要因その5

児童生徒の主体的な学習態度の育成

○過去問題や解答をﾌｧｲﾘﾝｸﾞし，子どもが主体的に取り組めるようにしています。
○取組の結果を記録する自己評価表を活用し，自分の伸びを実感させています。
○キャリア教育を重視し，今取り組んでいる学習の必要性を考えさせています。

要因その6

個別指導の充実

○わかるまできめ細かに指導し，「わかった！できた！」を実感させています。
○担任だけでなく，全教師が協力して指導しています。
○個別指導の時間を放課後，夏期休業にも位置付け，支援しています。

要因その7

生徒指導の3機能を生かした学級経営

○生徒指導の３機能を意識した授業づくりや学級づくりを行っています。
○教師自ら，言葉遣いに配慮し，児童生徒を尊重しています。
○Q-U やいじめアンケートを活用し，人間関係づくりに生かしています。
○キャリア教育を重視し，自己有用感や社会性の育成を図っています。

要因その8

家庭学習の充実

家庭との連携

○「家庭学習の手引き」や「学習シラバス」で，学習方法や年間の学習の見通しを家庭と共有できるようにしています。
○予定黒板に各教科の宿題を明示するなど，「授業→家庭学習→次の日の学習」のサイクルを重視し，学習意欲をもたせています。

◆◆◆秋田県と福井県の成績が良好である共通の要因について　◆◆◆

○校長ビジョンにそって熱心に取り組む教師集団
○授業中の子どもの対話力や発表力の高さ
○書く活動に重点をおいた指導
○家庭での保護者の協力による学習習慣と生活習慣の改善
○地域の教育力の高さと学校・家庭・地域のつながり

他県の取組は，地域性が違い，必ずしも同じ取組をすればよいということではありませんが，**取組の徹底**や**PDCAｻｲｸﾙの活用**は重要です。

～H22年度文部科学省委託研究報告書　研究代表者　田中博之（早稲田大学大学院教職研究科）より引用～